

## 委員会等の会議録

1	会議名	第10回愛南町海業推進会議	
2	議題	愛南町の海業の推進について	
3	開催日時	令和8年3月16日(月)14時30分から15時20分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5	傍聴者数	1名	
出席者			
6	委員氏名	大石 常也、大野 甲子彦、栗林 賢一、後藤 理恵、 秦泉寺 孝一、関根 麻里(オンライン)、高橋 翔、 永元 将博、濱本 涼、深堀 毅、藤田 有紀、 前田 眞(オンライン)、向田 和広、森 裕之、山本 正文	
7	担当所属  担当職員 (職・氏名)	所属名	水産課海業推進室
			主幹 清水 貴光 室長補佐 尾崎 光弘 係長 広瀬 琢磨 主事 中村 一喜、小山 絵風 Umidas 清水 陽介 地域おこし協力隊 西村 健
8	その他の 出席職員	所属名	
		出席職員	愛南町長 中村町長 漁港漁場漁村総合研究所 伊藤氏、高階氏 愛媛県庁漁港課 伊藤係長、近藤技師 愛媛県庁南予地方局愛南水産課 高島課長 荒木技師  水産庁 計画・海業政策課 加藤係長(オンライン)
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
藤田室長	<p>定刻になりましたので、ただいまより、第 10 回愛南町海業推進会議を開会させていただきます。</p> <p>本日の司会を務めさせていただきます、海業推進室の室長の藤田です。よろしく申し上げます。</p> <p>開会に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。愛南町海業推進会議次第、第 9 回海業推進会議会議録、愛南町海業推進会議運営委員会の議事概要 3 回分、各プロジェクトの進捗について、愛南海業コンシェルジュ Umidas 資料、「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)、愛南町グランドデザインのプロジェクトの地図、愛南町 SDG s 水産環境未来都市構想(案)の資料になります。すべてお手元にお揃いでしょうか。不足がありましたらお知らせください。</p> <p>それでは開会に当たり愛南町長から御挨拶申し上げます。</p>
中村町長	(開会挨拶)
藤田室長	<p>中村町長、ありがとうございます。</p> <p>議事に入る前に、本日、欠席の連絡を浦崎委員、澤近委員、稲田委員、宮下委員、李委員、大森委員、谷岡委員の 7 名からいただいておりますので御報告いたします。なお、前田委員、関根委員については、オンラインにて出席していただいております。そして、7 月 23 日以降に新たに海業推進委員になられました方を御紹介いたします。お名前をお呼びいたしますので、一言御挨拶をお願いいたします。秦泉寺委員、お願いいたします</p>
秦泉寺委員	<p>ただいま御紹介に預かりました伊予銀行愛南支店の秦泉寺と申します。よろしく願いいたします。私は昨年 8 月に愛南支店に着任しましたので、今回初めての会議の出席となりますが、愛南町のために微力ながらできる限りのことを行っていきたいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。</p>
藤田室長	<p>ありがとうございます。</p> <p>また、本町が海業実装推進委託業務を締結しております、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所から伊藤様、高階様にお越しいただいております。</p> <p>そして、愛媛県庁から漁港課伊藤係長と近藤技師、愛南水産課からは高島課長にお越しいただいております。</p> <p>そして、水産庁計画・海業政策課海業振興室より加藤係長がオンラインでの参加となっております。</p> <p>以上で御紹介を終わります。</p> <p>なお、本日は、全体を公開会議としておりますが、外部記者のカメラ撮り・録音については、ここまでとさせていただきます。</p>

発言者	発言内容
山本議長	<p>す。また、事務局の記録用の録音については、議事録等作成のため会終了まで行いますので、御了承のほどお願いいたします。なお、委員の皆様におかれましては、発言の際は挙手していただき、山本課長がお名前をお呼びいたしますので、お手元のマイクのスイッチをオンにして、お話していただきますよう、お願いいたします。なお、お話が終わりましたら、もう一度スイッチを押していただきましたら、電源が切れますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入りたいと思います。ここから先は、懇話会設置要綱の規定により、議長を水産課の山本課長に引き継ぎますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は委員の皆様方におかれましては、お忙しいところ本会議に御出席いただき誠にありがとうございます。要綱の規定に基づき、本会議の議長を務めさせていただきます、水産課長の山本です。進行等でいろいろと御迷惑をおかけするとは思いますが、スムーズな会議の進行へ委員の皆様方の御協力をよろしく願います。</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。議題1の「前回(7月23日)以降の海業推進会議等について」、事務局からの説明をお願いします。</p>
尾崎室長補佐	<p>お配りした7月23日の会議録、9月30日の議事概要、12月22日の議事概要、2月26日の議事概要を基に説明させていただきます。</p> <p>初めに、7月23日(月曜日)13時半から本会議の9回目を行っております。これまでの歩みと体制と整備議事内容については、令和5年度に海業モデル地区に愛南町が選定され、海業推進室を設置しております。また、愛南町海業ランドデザインを3月に策定しました。四国発のJブルークレジット認証取得を12月に実現しております。令和6年度については、海業ランドデザインの策定から実装へ移行しております。先進地視察や中間支援組織の設立準備を推進し、中間支援法人である一般社団法人U m i d a s を設立しました。令和7年度については、なりゆきの未来からなりたい未来へということで、官民連携によりプロジェクトの進化の拡大を図ることで今年度動いてまいりました。</p> <p>続きまして毎回行っている各プロジェクトの進捗状況については、議事概要のとおりとなりますので後ほどお目通しをよろしくお願いいたします。</p> <p>次の資料になります9月30日の議事概要になります。9月30日(月曜日)15時から海業推進会議運営委員会として、ランドデザインの進捗等についての会議を行いました。議事概要</p>

発言者	発言内容
	<p>のとおりとなりますので、後ほどお目通しください。会議の中で1番の議題となったのは、「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)についてになります。このプロジェクトについては、令和6年度までは「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」プロジェクトを行っていましたが、それに替わるプロジェクトとして、3人グループで話し合いを行いました。</p> <p>続きまして、12月22日の議事概要になります。14時半から海業推進会議運営委員会を行っております。12月22日についても、グランドデザインの進捗等を確認しております。議事概要のとおりになりますので、後ほどお目通しください。当会議でも、「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)について、愛南町の既存のイベントや資源を季節ごとのイベントカレンダーにまとめました。今回は3班に分かれて意見交換、討論を行いました。なお、その発表内容には、既存のイベントではなく新規の提案もありました。今回の資料に添付しています季節ごとにまとめた資料がその結果となっております。後ほど、「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)の説明の際に御説明いたします。</p> <p>続きまして、2月26日が最後の議事概要になります。14時から海業推進会議運営委員会として開催しました。当会議でもグランドデザインの進捗と各事業報告をいただいております。内容は議事概要のとおりになっております。「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)については、前回意見交換を実施したプロジェクトから、単発のイベントを避けること、継続性と検索性があることを選定条件として、町外へのアピールに適した季節ごとの「押しイベント」を本日説明資料のように選定しております。これらについては後ほど説明させていただきます。また、最後に愛南町SDGs水産環境未来都市構想の見直しのために運営委員会参加者には事前にお配りし、今回もお手元にお配りしておりますが、愛南町SDGs水産環境未来都市構想(案)について皆さんの意見を求めることとしております。また、現在パブリックコメントも行っている状況です。</p> <p>以上が7月23日以降の推進会議以降に動きがあった説明となります。</p>
山本議長	<p>ありがとうございました。事務局の説明が終わりました。今の説明について御質問、御意見等ありましたらよろしくお願ひします。なお、冒頭に司会からお願いがありましたが、発言の際は挙手していただき、私が委員さんの名前をお呼びしますので、お手元のマイクのスイッチをオンにした後に御発言いただけたらと思います。御協力お願いいたします。</p>
委員一同	(質問なし)

発言者	発言内容
山本議長	<p>ないようでしたら、次に「愛南町海業グランドデザインの進捗報告」を議題とします。愛南町海業グランドデザインの進捗報告及び今年度以降のグランドデザイン全般の動きについて、事務局より説明をお願いします。その後、各プロジェクト主体の委員及び事務局から進捗の報告を行っていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。</p>
尾崎室長補佐	<p>それでは、事務局尾崎より、各プロジェクトの進捗について説明いたします。私の説明後に各主体より補足説明をいただくこととしておりますので御協力よろしくお願いします。</p> <p>それではまず、各プロジェクトの進捗についてという資料を御覧ください。まず初めに全体を通しての話になりますが、今年は「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」プロジェクトを見直すということで、「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)を組み込む予定としていることが全体的な動きになっております。</p> <p>それでは初めに、プロジェクト名「人が繋がる、海から始める。インバウンド！A I N A N ツアー生成」プロジェクトから説明させていただきます。後ほど主体より補足説明をよろしくお願いします。</p> <p>それでは資料を1枚めくっていただきまして、まずは現状から説明いたします。記載にもありますが、現状として合同会社Sea Westが主体となり、インバウンド向けのツアーを開発、グリーンフィンズ認証の取得、ダイビング観光船事業、愛南町ふるさと納税の対象として海底熟成ワインの登録ということが掲げられております。その中の課題としては、まず初めに、資金不足、人手不足ということが挙げられております。</p> <p>次に、協力していただきたいことについては、関係人口の増加や、愛南町内の各事業主体との相互連携が挙げられております。また、対策については、資金不足を補うため、各種補助金への応募、エアビーへの登録で宿泊と体験を海外に向けて発信することや、外国人向けにツアーの募集を行ってもらうこと、旅行会社の選定やPR方法の確立としております。次のページには、ここで目指す姿、将来像等が書いてあるのですが、これまでの事業実施を通して蓄積したデータ及び調査結果を総括したものであり、お手元の資料に詳細をまとめておりますので口頭での説明は割愛させていただきます。</p> <p>以上が事務局からの説明となります。続いて主体の高橋委員から補足をよろしくお願いします。</p>
高橋委員	<p>当プロジェクトの中身について詳細を私から御報告させていただきます。</p> <p>まず、皆様の御協力のもと、グリーンフィンズ認証を取得することができました。ありがとうございました。</p>

発言者	発言内容
	<p>取得の過程では、旅行者向けに地産の食材を使ったメニュー開発なども行いまして、商品を提供できる状態にまで至りました。特に御協力頂きました漁協の皆様には、今一度御礼を申し上げたいと思います。</p> <p>まず昨年度同様の報告になりますが、既存サービスというのは、海外の方から問合せを受けることが多々ありました。</p> <p>現在、英語表記の案内をしていない状態ですが年間 20 件ほどの海外からの旅行者の予約を受けています。現地の受入れ体制を整えれば、すぐにお客さんの誘客はできるのではないかと考えているところですが、同時に受入れ時の担当者の確保が課題になると考えています。言語対応も含めて、ある程度の対応技術が必要になりますので、誰でも対応が可能ではないという点が悩みです。</p> <p>この受入れ担当人材の問題に関しまして、今は暇な平日などの受入れのみに絞り、サービスの時間枠を通常よりも長めに確保して対応しています。通常サービスよりも多めの時間枠を確保した場合には、高めの単価を設定する試みを何回か実施しましたが、1.5 倍ほどの金額で提供しても、海外の方からは高いとは思われていないような反応を受けています。</p> <p>体感としてですが、海外の方にもある程度の事情は察していただいて、納得した状態でサービスを受けていただいている、という状況です。</p> <p>ここからは報告のほか、現在どのような狙いを定めて動いているか等も含め、プロジェクトの目的を共有していきたいと思っています。</p> <p>個人の主観になりますが、移住して 10 年たった今でも思うことは、愛南町にはまだ良いものがたくさんあるということです。</p> <p>そして、その際に思うことですが、良いものがたくさんあるので、新規の商品開発ということも大切ではありますが、長期目線で考えると、プレーヤーの育成・獲得の重要度がすごく高いのではないかと最近更に感じるようになってきているところです。そのため、外貨の獲得と並行して、内部への種まきであるプレーヤーの育成や獲得にも目を向け、このプロジェクトで寄与できたら良いと考えております。</p> <p>詳細を伏せながらお話をしていこうと思いますが、この未来のプレーヤーを育てる仕組みを、皆さんや学校教育課と連携して、来期行っていこうと計画しているところです。愛南町で行う人材集め・プレーヤー集めがとても大切だと思っており、愛南町で活躍してくれるプレーヤーを集める方法を考えたときに、概ね流入の経路が三つほどに分類されると考えています。</p> <p>一つ目が、外で既に活躍しているプレーヤー、事業者を誘致して、愛南町のフィールドを使ってもらう方法、二つ目が、個</p>

発言者	発言内容
尾崎室長補佐	<p>人を町に呼び込むこと、これが移住になります。三つ目に町内からプレーヤーを発掘・獲得、または未来のプレーヤーを育てること、これらがとても大事だと考えています。この三つの経路に対して、アプローチをかけようとは思っているのですが、まずは、三つ目に挙げた未来のプレーヤーの確保、町内のプレーヤー育成から手をつけていきたいと考えています。</p> <p>大まかな概要にはなりますが、自分たちが行っていること、仕事等のまだ知らないことを皆さんに知ってもらえるような仕組みを作っていきたいです。</p> <p>そこで、私の場合は海を伝える仕組み作りになりますが、現在、山の事業者とも手を組もうと話を進めているところです。町のことに対して少しでも興味を持った人たちが増えてくれば、その中から熱意を持って行動したい人、したいと思う人が出てくるのではないかと考え、この活動を取り入れようとしております。</p> <p>今回、愛南町で取り入れた国際認証グリーンフィンズも、外向きの宣伝効果というものはもちろん大きなことではあるのですが、町の人たちがまだ知らないことを知る試みや、近くにあるもの自分たちの町のものに対して興味を持つ仕組みとして考えた側面が強くありました。各自の生活の邪魔をすることなく、負担の少ない状態で、興味を持ってもらえるような仕組みづくりが大切だと考えています。そのような仕掛けをつくって輪を広げていけたのなら、未来のプレーヤーが育つ足がかりになると考えており、考慮する点はほかにもあるのですが概要を報告しました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次のプロジェクトに行きたいと思います。全てのプロジェクトの説明終了後に質疑応答の時間をとりたいと思いますので、よろしく願いいたします。それではもう1ページめくってください。</p> <p>次は「愛南ぎょしょくツーリズム」プロジェクトの説明になります。現状としては、ぎょしょく教育の実践として、愛南町ぎょしょく普及推進協議会が小中高等で年間約60回の出前授業、座学試食体験を実施し、水産物の消費拡大と将来の担い手育成文化継承を図っております。</p> <p>また、ぎょしょくツーリズムの展開として、令和8年度より観光業者へ、市場見学や調理体験を組み込んだ1泊2日のツアーを企画し、委託する方法を検討しております。その中で課題として、事業の推進に当たっては、旅行会社との連携や体験受入事業者の本業への影響に加え、天候不良時の代替案作成や危機管理マニュアルの整備など、不測の事態にも対応できる確実な受入れ体制の構築が求められております。続いて、協力して</p>

発言者	発言内容
清水主幹	<p>もらいたいことについては、有資格者の旅行会社とのマッチングから安全管理を徹底したコンテンツ造成選定のアドバイスまで一貫した支援をお願いしたいと考えております。その対策としては、有資格者の旅行会社とのマッチングから安全管理を徹底したコンテンツ造成、選定の助言まで一貫した支援を仰ぐことで、不測の事態にも万全に対応し得る確実な受入れ体制の構築、検討を具体化していくことが考えられます。</p> <p>続きまして次ページになります。目標とする将来像については、先ほど同様に口頭の説明は割愛させていただきます。後ほど、御覧ください。</p> <p>続いて主体の清水主幹、補足をお願いします。</p> <p>「愛南ぎょしょくツーリズム」プロジェクトにつきましては、令和7年度にU m i d a sへお願いして、事業を進めさせていただいております。具体的にはU m i d a sから御説明があるかと思うのですが、令和7年度につきましては、モニターツアーを実施し、令和6年度と同様にモニターツアー参加者のアンケート結果から、漁村総研に分析をしていただく予定となっております。その結果を基に、令和8年度も同じような形でモニターツアーを実施しながら、できればモニターツアーではなく、ぎょしょくツーリズム自体を販売していけるような体制づくりができれば良いと考えております。私の方からは以上です。</p>
尾崎室長補佐	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、1ページをおめくりください。</p> <p>次に「愛南町ブルーカーボン創出」プロジェクトになります。まず初めに現状としては、資料に記載がありますように、調査時期については、マメタワラが最も繁茂する6月上旬に実施予定としております。調査方法については、ドローンの空中撮影でサンプル採取後、藻場面積と重量からマメタワラのCO<sub>2</sub>吸収量を算出し、マメタワラの繁茂状況調査及びJブルークレジット申請について継続して取り組む予定としております。申請に係る詳細については、資料のとおりとなっております。課題としては、本事業の推進に当たり、買取り先の確保と大量申請の対応が急務となっておりますが、現状は調査員が1人という極めて限定的な体制が実行上の大きな制約となっております。今後は運営体制の強化を図ると同時に、実測データの精度向上を両立させ、事業の信頼性を担保することが最優先の課題となっております。協力してもらいたいことについては買取り先が見つかるよう、広報宣伝、SNS等が挙げられております。その対策として、課題にもありますように本事業の推進には、買取り先の確保と大量申請の迅速な対応が不可欠です。し</p>

発言者	発言内容
広瀬係長	<p>かし、先ほど申し上げましたとおり現状は調査員が1人という体制が事実上の大きな制約となっております。</p> <p>この課題を解決するためには、今後は運営体制の抜本的な強化を図るとともに、実測データの精度向上に向けた仕組みを構築いたします。これにより、処理能力の拡大と事業の信頼性担保を両立させ、確実な事業遂行を目指すこととしております。</p> <p>次のページになります。このプロジェクトも同様に、将来像について口頭での説明は割愛させていただきます。続いて主体の広瀬係長、補足をよろしく申し上げます。</p> <p>「愛南町ブルーカーボン創出」プロジェクトにつきましては、追加資料を2枚添付しております。</p> <p>1枚目につきましては、Jブルークレジット認証取得のプレスリリースについて、2枚目につきましては、JBEのホームページで公開されている令和7年度の取組概要資料です。こちらにつきましては先ほど尾崎から説明のありました進捗の資料の更新版となります。</p> <p>Jブルークレジットの認証申請につきましては、2月6日に33.8トンで認証され、2月20日にプレスリリースを行いました。前回の推進会議では、面積が8.8ヘクタール、重量が1,600トンと、面積、重量ともに前年度の数値より増加していたため、令和6年度の認証量を超えるものと考えておりましたが、今年度は計算式が変更されており、最終的な認証量は前年度より1トン減少した33.8トンという結果となりました。クレジットの販売が可能となる公募時期につきましては、例年とおりであれば、7月頃から約半年間行われ、現在売れ残っている令和6年度分も合わせて、公募にかけられる予定となっております。本プロジェクトの課題として、クレジットの販売が挙げられますが、その点については支援を呼びかけてくれる企業が現れたことや、愛媛県のゼロカーボン推進課との連携を進めておりますので、そういったところから販売につなげていきたいと考えております。以上説明を終わります。</p>
山本議長	<p>ありがとうございました。各委員及び事務局からの報告が終わりました。ここまでの報告、全般を通じて、何か御意見、御質問等はありませんか。</p>
秦泉寺委員	<p>「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINANツアー生成」プロジェクトについて、海底熟成ワインの部分について、どのような進捗になっているのか、どのようなイメージで実施しているのかをお聞かせいただきたいです。私自身、前任地が今治の大三島で、愛媛新聞にも掲載され、地域再生大賞の優秀賞を受賞した大三島みんなのワイナリーという、建築家</p>

発言者	発言内容
高橋委員	<p>の伊東豊雄先生が立ち上げたプロジェクトで、ちょうど 10 年ぐらい経過しワインも生産されています。耕作放棄地をブドウ畑にしてワイン作りをしており、先日も F C 今治さんのグラウンドの周りでとれたブドウでワインをつくって、J 2 に昇格する際に飲むというイベントを実施するという連携もあり、興味深い展開があります。そこで、このプロジェクトの進捗展開についてもお聞かせいただければと思います。</p> <p>海底熟成ワインは当プロジェクトで実施しようと考えていたわけではありませんが、運営委員会の雑談で話したことを事務局に拾っていただいて資料に入ったという経緯のものです。また、そのワインについては、ふるさと納税に商品として出せるような形にしており、先日 6 本、値段にして 10 数万円で注文が入りました。そのほか、ふるさと納税として出している以外のもの、実験的に熟成しているワインがあり、県庁建設課にいるダイバーさんが熟成ワインを試飲したところ、実際にそれがおいしかったという話は聞いております。このワインを上手く取り扱うことで商品化できると考えています。</p> <p>昨日、以前海業推進委員をしていた佐伯氏が酒造関係の方と一緒に来訪し話をした際に、梅酒を海底熟成してみてもどうかという話までが進んでいるところです。</p>
秦泉寺委員	<p>インバウンドひいては観光の楽しみの一つに食事があり、その中でそれぞれのシーンに合うお酒も魅力の一つですので、この地域ならではのお酒やワインができればより活性化にもなると思います。ちなみに、熟成するワインの産地はどのようなものを使っていますか。</p>
高橋委員	<p>個人的な主観でトスカナ地方のワインが気に入っているため、それを取り寄せて沈めています。</p>
秦泉寺委員	<p>先程、その地域ならではのお酒と言ったように、原料も製造も熟成も全て愛媛県産というストーリーがあれば面白いと考えたための質問でした。</p>
高橋委員	<p>最後にもう 1 点、愛南町内には梅がたくさん落ちているとのことで、良いお酒さえ確保できれば美味しい梅酒が作れるのではないかと考えているところです。</p>
山本議長	<p>ありがとうございます。ほかに何か質問はありませんか。</p>
後藤委員	<p>質問が 2 件あります。まず 1 件目は、「人が繋がる、海から始める。インバウンド！ A I N A N ツアー生成」プロジェクト</p>

発言者	発言内容
高橋委員	<p>について、未来のプレイヤーの育成・獲得としていましたが、その中でもどのようなプレイヤーが重要なのか、喫緊で必要になってくる要素はどのように考えていますか。</p> <p>質問をいただいて私が思っていることとして、長期的、最終的にこうなってほしいという考えであり、中期・短期的な直接的な手法ではありません。そのため、私の考えとして、人材育成をしていく流れにも地域の人たちが町内の観光的魅力や歴史を知っていくストーリー性がいずれできていき、それも含めて観光商材になれば良いのではないかと考えています。</p>
後藤委員	<p>プレイヤーの育成が必要という点について、具体的にどのような人材が必要であるということではなく、プレイヤーが育つ過程について広い目で捉えているとのことで理解しました。</p> <p>また、2件目にブルーカーボンについてですが、人手不足という点で、どのくらいの作業量があるのかということと、ユニッコリーの取組と同じような位置付けで学習コンテンツとして上手く取り組めないかと考えたのですがいかがでしょうか。</p>
広瀬係長	<p>人手不足について、調査自体は1人で完結するのですが、その後の販売が難航しているため、営業力を補う方法を考えているところです。学習コンテンツにつきましては、調査に同行することは難しいため、ユニッコリーの体験で対応させていただければと考えています。</p>
山本議長	<p>ほかに何かありませんでしょうか。</p> <p>ほかにないようでしたら、次に「一般社団法人Umidas」について、事務局から報告をお願いします。</p>
Umidas 清水	<p>Umidasの進捗につきましては私から説明させていただきます。各プロジェクトの進捗状況ということでA4(1枚)にまとめたものがありますので、この令和7年度事業実施概要という資料を基に説明したいと思います。</p> <p>Umidasについては、愛南町の地域資源を活用して新たな経済循環を生み出すという目的で、海業推進会議の中から生み出された中間支援組織です。</p> <p>今年度につきましては、設立された初年度ということで動きにくい部分がありましたが、最初は体制づくりと外部への情報発信に重きを置いて活動しました。</p> <p>事業実施概要につきましては、Umidasや愛南町が取り組んでいる事業を紹介する講演依頼が7件、我々が町外から人を受け入れるための体制づくりや先進地視察などの研修・報告会への参加が17件、愛南町の海業について視察や取材への対</p>

発言者	発言内容
	<p>応を 16 件、人数にしますと約 70 名の方が来町されております。次に、ぎょしょくツーリズムや体験の提供などのツアーモニターについては、町内又は町外の方たちが対象になったものも含め 17 件、参加人数にしますと 330 名の方が参加しております。そのほか、町外・町内のイベントに U m i d a s として参加したものが 6 件、海業・U m i d a s の取組の紹介のための原稿執筆依頼が 2 件という結果になっております。</p> <p>それぞれの活動について、まず、ぎょしょく体験ツアーのプログラムの構築につきましては、町外の親子を対象に、1 月に愛南町内で 3 泊 4 日のツアーを行いました。実施内容につきましては、もともと愛南町内でぎょしょく体験をやっていたコンテンツもあれば、このために新たに作ったコンテンツもございます。また、海業というところで、海の資源だけではなく山の資源も活用して町全体を活性化させようということにもつながっていきいたため、海だけではなく、山のジビエを使ったピザづくりや、柑橘農家の方に協力を得て柑橘の収穫体験や選別体験なども行っております。実施する中で、良いところや悪いところ、課題も見えてきました。良いところとしては、若い人たちがなかなか本物の生き物や生産現場に触れる機会がないなかで、実際に生き物に触れられる、あるいは生産現場を生で見られ、生産者の言葉を生で聞けるというところ。また親御さんも、子供たちが体を動かし体験するところを見て楽しんでいただき、子供と同じように初めて見るものも多かったようで、親子含めて教育学習の場として、とても優れているという印象を強く受けました。</p> <p>一方で、町外の方を受け入れる体制に、我々含め体験を提供する側も慣れてない部分もあり、安全面やコンテンツとコンテンツの間の時間のとり方、あるいは食事の量などについては課題が残りました。愛南町の方たちは、とてもおもてなしの精神が大きく、ご飯の量については、子供はまだ大量に食べられないにも関わらず、少なくともはいけないと思いたくさん提供したいという方が多くいました。しかし、このツアーのテーマが、食のありがたさ、大切さを学ぶことに重きを置いたもので、このツアーで食べ物を残すことに抵抗がある方たちが多く参加しておられました。そのため、生産現場を見学して、生産地がどのような苦労やこだわりを持って食材を作り、それらが食卓に上がっていることを知った上で食事を楽しむため、残さず全部完食できるぐらいの量が良かったというところが一番の反省点と考えています。</p> <p>また、今回 1 月に実施したため、来年度は夏にもう一度、長期間で実施しようと考えております。今回の反省を基に、夏に向けて各方面の方たちの協力を得ながら計画していきます。</p> <p>2 番目の観光客の受入れ体制の構築については、U m i d a</p>

発言者	発言内容
	<p>sとしても体制が未熟なため、先進地視察や各種研修交流会に参加し、先進地ではどのように対応をしているのかを学び、U m i d a sについても広く知ってもらう活動を行いました。</p> <p>また、愛南町内でも、体験を提供する方が限定的で、このツアーの回数が重なっていくと、特定の人に負担がどうしても寄ってしまいます。例えば、漁業者の方が魚に給餌しなければならない時にお客さんが来たら、当然その日は休まなければならないようになります。そういった負担を軽減させたいため、体験を提供できる方、体験をサポートできる人を、町内の方たちが中心となり1人でも多く育てていかななくてはならないところで、愛媛大学、高橋委員の協力を得ながら人材育成についても取り組んでおります。今年度につきましては、まずボランティアガイドとは何か、ぎょしょく教育とは何か、愛南町の水産業とは何かという基本的なことを学び、その後に各体験コンテンツ別の内容を理解した上で、現場で実習をしてボランティアガイドを育成するプログラムを一部実装できる段階になりました。来年度は構築したプログラムを試験的に運営し、ガイドを実際にできる人材を育成できたら良いと考えています。</p> <p>3番目の情報発信につきましては、U m i d a sのホームページ、インスタグラムを開設し、その中でU m i d a sの取り組みや、愛南町内の今月のイベント情報の発信を愛媛CATVと協力しながら発信していく体制ができております。</p> <p>今後、ぎょしょく体験のようなコンテンツを増やしていきたいということと、可能であれば愛南町に来ていただいた方たちに、愛南町内を周遊できるような、商業・飲食関係の方たちにも少なからず経済効果が得られるような体制を作っていきたいと考えておりますので、皆様の御協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
山本議長	<p>事務局からの報告が終わりました。この報告について、何か御意見、御質問等はありませんでしょうか。</p>
大野委員	<p>次年度以降の体制について、人員の変化はありますでしょうか。</p>
中村町長	<p>まだ人事異動を公示しておりませんので、この場でお答えすることはできません。</p>
大野委員	<p>分かりました。</p>
山本議長	<p>私からも、ぎょしょく体験ツアーについて、このツアーのテーマにある「いただきますの裏側」というコンセプトが非常に良いと思っています。次回のツアーに向けて引き続き準備を進</p>

発言者	発言内容
栗林委員	<p>めていただきたいということと、このツアーを子供たちへの体験のほかにも、社員旅行に組み込む等の展開も面白いと考えております。</p> <p>そのほかの御質問・御意見はございませんか。</p> <p>1月に行ったぎょしょく体験ツアーについて、最後にアンケート調査を行っていましたが、その結果はどのくらいの範囲で公開されますか。公開範囲によって知見を得られたり、協力者を得られたりと可能性を広げられると思っているのですがいかがでしょうか。</p>
Umidas 清水	<p>アンケート結果については、ツアー参加者の個人情報管理の観点から、生データの公開範囲はUmidasとツアー提供者としております。できるだけ町内の人たちに得られた成果を共有したいと思っているところもありますが、成果を安易に町外にも公開することで、他の自治体にデータだけを利用されるなどのリスクも発生するため、現在、一般公表は避けている状況です。しかし、町内の方にこのようなアンケートがあったことを知ってもらい、フィードバックに使ってもらえるような形にしたいと考えております。</p>
山本議長	<p>そのほか、御質問はございませんか。</p> <p>ほかにはないようでしたら、次に「愛南町きらめき海道プロジェクト(案)」について、事務局から報告をお願いします。</p>
尾崎室長補佐	<p>四つ目の資料であります「愛南町きらめき海道プロジェクト(案)」の資料を御覧ください。このプロジェクトについては、「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」プロジェクトにかわるプログラムとして7月23日の海業推進会議の際に紹介させていただいております。その海業推進会議以降に3回運営委員会を開催し、愛南町の既存のイベントや資源を季節ごとのイベントをカレンダーにまとめるため議論を行いました。先ほどの議事概要説明の際にも申し上げましたが、その資料のうち、3枚つづりになっている資料に「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)春・夏・秋・冬・通年という資料にまとめております。</p> <p>その資料を基に運営委員会出席者で、単発のイベントは避けること、継続性と検索性があることを前提条件として協議を行い、町外へのアピールに適した推しイベントを選定しております。また、このプロジェクトを本日委員の皆さんに承認していただくことができましたら、愛南町海業グランドデザインのプロジェクトの一つとしてホームページに掲載する予定としております。</p> <p>まず、案の段階の現状にはなるのですが、このプロジェクト</p>

発言者	発言内容
	<p>の概要として、プロジェクト名にある「きらめき」は「愛南町の海岸線や豊かな海の幸を表現し、訪れる人々に感動と輝きを与える場所」と捉えています。</p> <p>そして「海道」については、海沿いの道のりや体験をイメージして名称を考えました。</p> <p>将来的には、商工観光課やU m i d a s 等が活用できる宣伝ツールとして、来訪者へ観光導線の案内、パンフレット効果等を果たすことを目的としております。課題としては、町外から参加者に対する認知、誘客導線が弱いことや、イベント間の連携が弱く、周遊につながっていないことが挙げられております。協力していただきたいことは、各イベントの情報提供や来訪者の回遊促進への連携が挙げられています。その対策としては、年間イベントカレンダーの可視化や周遊するための横展開に向けたツアーの共通ノベルティや複数イベントの同時開催が挙げられております。目標とする姿・将来像については記載のとおりとなるのですが、今後は、先ほども申し上げたとおり、商工観光課やU m i d a s に活用していただけたらと考えております。なお、このグランドデザインのプロジェクトについては、出来上がった当初からあるのですが、あくまで例示という考えでありますので、今後はどんどん更新していくことを予定しております。</p> <p>今回説明しました「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)が確定しますと、愛南町グランドデザインの一部となります。一番最後の資料になりますが、愛南町グランドデザインが五つ載った地図があると思います。地図には、今まで「愛南町盛岡満喫スタンプラリー」プロジェクトが記載されていたところに、愛南町全域として「愛南町きらめき海道」プロジェクトという形で各季節の写真がモチーフになったデザインとしてここに掲載したいと考えております。また、南レクジャンボプールも選ばれておりましたが地図になかったため、南レクジャンボプールも名所として追加しております。これはあくまでも案のため、今度の運営委員会で資料のレイアウト等を整えていきます。</p> <p>以上が、「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)の説明となります。</p>
山本議長	<p>「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)について事務局の方から説明がございました。この件につきまして、何か御意見、御質問等がございますか。</p>
大野委員	<p>既にイベント情報を告知するようなホームページがあると聞いていますが、そのような似ている取組と内容が重複している状況をどう捉えていますか。</p>

発言者	発言内容
尾崎室長補佐	<p>観光協会が出しているページは、各イベントの周知のみになっております。こちらは、各コンテンツの動きも考えておりますので、観光情報のみになると重複するかもしれませんが、そのコンテンツをともに組み込む場合となると、「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)として差別化できると事務局は考えています。</p>
大野委員	<p>コンテンツという定義を詳しく理解できていないのですが、前提としてイベントは須ノ川公園祭りなどの期間が定まっているもののことで、コンテンツは磯釣りやノジギクなど季節性はあっても不定期になるもののことでしょうか。</p> <p>もともと愛南町の観光協会でも情報ページをどのように活用するのかが曖昧で、このプロジェクトの活用について完全に理解しきれていないためお聞かせいただきたいです。</p>
尾崎室長補佐	<p>大野委員の言う観光協会のページ運用の曖昧さもあり、本プロジェクトを構築したという点も少なからずあります。このプロジェクトを考えた背景にありますように、愛南町には多くの資源があり、町内外でPRしたいというニーズがあります。その資源が持つ独自の価値やその必要性について十分に伝わり切っていないという課題が見えており、観光協会が行うイベント情報の表示だけではアピール力が足りていない状況と考えます。そこで、観光協会を超えるようなイベントがアピールできると考え、各観光資源、コンテンツを結び、一つで終わらず周遊していただける、年間通して遊びに来ていただけるようなイメージで「愛南町きらめき海道」プロジェクト(案)を構築しました。何度でも愛南町に足を運びたくなるような体験・食なども取り上げ、来訪者への観光動線を果たすことや観光資源、地域の魅力の認知度向上、周遊促進に伴う地域の滞在時間の延長による消費促進を目的とし、情報共有を行うことで、各観光資源の相乗効果、関係人口の増加を図ることを推進したいと事務局として考えております。</p>
大野委員	<p>現在企画しているデジタルスタンプラリーと目的が似ているため、内容が重複してしまう可能性は回避できないと思いますが、それでも問題ないということでしょうか。</p>
尾崎室長補佐	<p>このプロジェクトは、海業を軸として考えたプロジェクトのため、行き先が同じになる現象も出てくる可能性もありますが、海業につながるコンテンツとしてとして考えていきます。</p>
高橋委員	<p>補足ですが、観光協会のホームページでは、各コンテンツに</p>

発言者	発言内容
秦泉寺委員	<p>対しての説明はありますが、そこからの導線について説明がないため、このプロジェクトでは導線も含めたものを随時発信していくという認識です。大野委員が企画しているスタンプラリーは、その導線を見た上で、さらに動機になるものを立ち上げることになるため、プロジェクトとの相乗効果があって良いと思います。</p> <p>プロジェクト資料に載っている写真について、鹿島や須ノ川のところにシュノーケリングの写真を採用しているとのこと、個人的に、愛南町と言えばシーウォーカーが印象に残っているため、なぜシュノーケリングを採用したのかを教えてください。</p>
尾崎室長補佐	<p>シーウォーカーについては、現在も観光パンフレット等で宣伝されることが多く、鹿島のみ体験できるコンテンツであるため、場所が限定的になります。一方で、シュノーケリングは鹿島だけでなく須ノ川でも体験できるため採用しました。</p>
山本議長	<p>ほかに御意見等はございませんか。</p>
栗林委員	<p>このプロジェクトの手法として、広告及びコーディネートを行うこと、観光導線強化に向けたホームページSNS露出などが書かれていますが、こういったSNSや広告の露出については、最初は内政で行い、いずれ一部外部に委託する等の見通しは今の段階で立っていますか。</p>
尾崎室長補佐	<p>広報の手法についてはまだ考えておりません。前回の運営委員会で取り上げた内容にはなりますが、Umidasが愛媛CATVと一緒に企画しているCMなどに載せることも考えていましたが、Umidasの業務に支障を来す可能性があるため、負担を極力軽減できるような手法を考えていきたい所存です。また、皆さんに考えていただいた季節のイベントを、今後周知していきたいと考えておりますので、再度このような機会を設け、皆さんと協議をした上で決定したいと思います。</p>
山本議長	<p>ほかに御意見等はございませんか。ほかに意見等がないようでしたら、最後に、「意見交換」を議題とします。本日の議題全般を通して、何か御意見等はありますか。せっかくの機会ですので、委員の皆様方の忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。何かございませんか。</p> <p>ないようでしたら、以上で本日の議題、全て終了となります。皆様方の御協力より、会がスムーズに終了したこと御礼申し上げます。ありがとうございました。それでは、進行を藤田</p>

発言者	発言内容
藤田室長	<p>室長にお返しします。</p> <p>委員の皆様、活発な議論等ありがとうございました。それでは、4のその他に移りたいと思います。</p> <p>事務局より2点、連絡事項及びお願いがあります。</p> <p>まず1点目は、配布しております、愛南町SDGs水産環境未来都市構想(案)を御覧ください。現在、水産課海業推進室では令和8年度から令和11年度までを計画期間とする「愛南町SDGs水産環境未来都市構想」の見直しを進めております。この見直しにあたっては、住民から広く意見を聴き、住民の意向を把握し、計画内容へ反映させる必要がございますので、この場を借りて皆様から意見を聴取したく存じます。せっかくの機会でありますので、委員の皆様方から忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。何かございませんでしょうか。</p> <p>いきなり意見を出していただくことは、難しいと思っておりますので、何かありましたら後日、郵送でも対応しておりますので、3月19日(木曜日)までに御連絡くださいますよう、御協力のほどよろしく申し上げます。</p> <p>次に2点目になります。</p> <p>御存じの方もおられると思いますが、水産課内の水産課維持係が建設課へ事務が移管となり、海業推進室が海業振興課に変更になります。この機構改革により、水産課がなくなり海業振興課へと名称が変更となりますが、「推進」から「振興」へと、言葉のごとく、来年度から海業の更なる飛躍に向けて尽力していきたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>事務局から以上になります。本会議全般について、何か質問や意見等、ございませんでしょうか。</p> <p>ないようですので、4のその他を終わります。最後になりますが、本日の配布資料と簡単な議事概要は、後日公表させていただきますので、御了承のほどよろしく申し上げます。</p> <p>以上をもちまして、第10回海業推進会議を終了いたします。今後も引き続き、本町の海業に御尽力賜りますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>本日は御参加いただき誠にありがとうございました。</p>